

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和3年度採択）

事後評価（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
2021-1	特殊車両の折進可否判定の自動化と特車フリー道路ネットワーク計画手法の研究開発	立命館大学 教授 塩見 康博	B

<研究の概要>

衛星画像データ等に基づいて交差点平面図を生成する手法や、特車の折進可否と通行条件判定、走行軌跡生成を自動化する手法を開発すると共に、速達性や頑健性等の指標に基づく特車フリー道路ネットワーク計画手法を構築する。

<事後評価結果>

- ・特殊車両の折進可否判定の自動化については、すぐに実用可能とまでは行かないものの成果を得た。特車フリー道路ネットワーク計画手法については、目的が明確にされないまま数理モデルの研究に偏った印象はあるものの、困難な内容に取り組まれている。
- ・研究成果としては十分であるが、当初計画していたシステム化までは到達していない。今後に期待したい。
- ・実装にはもう少し要しそうであるが、周辺システム個々で大いに成果があったと考える。
- ・多くの有用な成果が得られており、実用化、実務展開に向けて更なる取り組みが求められるものの、特車行政の改善に向けた大きな一歩として期待できる。
- ・関係者へのヒアリングでニーズを把握したうえで、実用化に向けた研究が行われていたことが評価できる。また、現状での精度が確認され、課題が明確になったことが評価でき、今後の検討の基礎資料として活用できる。
- ・研究の目的に沿って、研究期間内に目指した目標に合った成果が得られたものと評価する。なお、牽引車への車種拡大や実務者レベルの使いやすさについて、より力点をおいて今後の研究を実施されることを期待する。

このことから、研究目的は概ね達成され、研究成果があったと評価する。

<参考意見>

- ・現在の折進算定は車両情報を4パターンに簡略化して算定しているが、本研究の自動算定の精度が向上されるのであれば、より正確な算定に寄与することができ、また、道路情報便覧の登録が不要（もしくは簡素化）となり、業務の効率化に資するものとなる。
- ・研究代表者が指摘している通り、交差点形状などは特車に限らず交差点設計のベース構築にも適用できるため有益と考える。
- ・中間評価での指摘事項にも誠実に対応しており、十分な成果を挙げている。

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第50回新道路技術会議において審議したものである。